

若い世代が、戦争や原爆被害を実感し、平和意識を高めるプロセス（例）

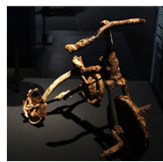
※（公財）広島平和文化センター・広島市が令和6年3月に実施した広島修学旅行に関するアンケート調査結果から抜粋

① 広島で、戦争・原爆被害の悲惨さとその愚かさを、様々な視点・角度から実感でき、身近なこと・自分ごとにつながった。

- ・原爆ドーム、資料館の展示などを通じ、実際に起こった出来事をイメージできた。
- ・被爆者はじめ沢山の方々に会い、平和への強い思いを受け止めた。
- ・平和記念公園にしか存在しない緊張した空気（雰囲気）を体感した。
- ・沢山の外国人観光客を目の当たりにし、世界からの関心の高さを知った。
- ・同世代の子どもの被害・家族の悲しみを知り、また、同世代と交流し、深く共感した。



原爆ドーム



資料館展示物
三輪車の遺品
(寄贈者：鎌谷信男氏)



被爆体験講話



ピースボランティアによるガイド
平和記念公園周辺の碑巡り



原爆の子の像
折鶴奉納、平和集会の実施

写真：広島市、広島平和記念資料館



② 平和の対極にある、戦争・原爆被害の存在を知ったことで、自分たちの平和な生活が、先人の努力の上にかち取られた有り難いものであることに気づく。



③ そうである以上、平和は黙って与えられるものではなく、自らが能動的に努力して、守っていかなければならないと自覚する。



④ 平和の実現に向けて自ら取り組むことに発展していく

- あらゆる暴力は否定されるべき＝仮に争いが生じて、話し合いで平和的に解決すべき。
- 日常生活で自分にできることを実践
(人間関係を大切にする、ルールを守る、当たり前のことを当たり前に行うなど)
- 社会を担う一員として、戦争・被爆体験を語り継いでいく責任を認識
- 核兵器廃絶や世界の恒久平和に関心を持ち、声を上げていく